

# たまねぎレポート【第401号】



令和3年3月26日

## 社 内 報

### 阪南青果株式会社

2月の日本の天候は、気温は全国的に高く、東・西日本でかなり高くなった。降水量は、北日本の日本海側でかなり多くなった。日照時間は、東日本の太平洋側、西日本の日本海側と沖縄・奄美で記録的に多くなった。3月は温暖な日が多く、桜花は既に満開の地域があり、春の訪れは例年より早くなっている。他方、北海道では積雪が1m超の地域もある。

気象庁の4～6月の3か月予報では、平均気温は、北・東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、東日本の太平洋側で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

4月、北・東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では天

気は数日の周期でかわるが、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

## 野菜の概況

建値市場の2月の野菜の販売量は、207,493トン前年比95%(前月比102%)、平均単価はkg¥216前年比104%(前月比93%)。コロナ禍で巣籠り傾向が続いたもののまずまずの動きであった。引き続き家庭需要に増加傾向が見られるものの、外食筋の需要は厳しく閉店・休業が相次いだ。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg¥190前年比110%。東京市場の販売量は前年比94%平均単価はkg¥232前年比107%。名古屋市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥211前年比109%。大阪本場の販売量は前年比93%、平均単価はkg¥213前年比110%。福岡市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg¥157前年比98%となっている。

建値市場の2月の玉葱の販売量は25,663トンで前年比92%、(前月比105%)、平均単価はkg¥93前年比119%(前月比108%)。前年比で数量減の価格高となった。総じては、入荷は前年比減の単価高であった。極早生の最盛期を迎えた静岡産が予想外の入荷減となった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,170トン前年比107%、平均単価はkg¥61前年比111%。東京市場の販売量は9,991トン前年比89%、平均単価はkg¥1

05前年比128%。名古屋市場の販売量は6,155トン前年比89%、平均単価はkg¥89前年比113%。大阪本場の販売量は4,421トン前年比92%、平均単価はkg¥92前年比119%。福岡市場の販売量は1,926トン前年比94%、平均単価はkg¥92前年比103%となっている。

日本農業新聞社の、主要7地区代表荷受7社の2月の主要野菜14品目の販売データの集計値では、販売量が92,757トン前年比3%減。平均単価は、kg¥133前年比12%高、平年(過去5年平均値)比11%安となっている。販売量が前年比増となった品目は、ピーマンが前年比21%増、ハクサイ12%増、トマトが9%増など7品目。販売量が前年比減となった品目は、ネギが前年比23%減、タマネギが14%減、ジャガイモが12%減など7品目。

価格が前年比高となった品目は、ジャガイモがkg¥200で前年比122%高、ネギがkg¥443で105%高、ニンジンがkg¥123で46%高など7品目。前年比安となった品目は、トマトがkg¥275で前年比26%安、ハクサイがkg¥37で21%安、ピーマンがkg¥666・キュウリがkg349で13%安など7品目。タマネギの販売量は前年比14%減、価格はkg79で14%高となっている。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷量は、114,660トン前年比94%(前月比101%)。平均単価はkg¥232前年比107%(前月比93%)で弱保合の推移となった。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ピーマン・トマトが前年比114%、ナスが105%など7品目。入荷が前年比減の品目は、バレイショ・ネギが前年比76%。サトイモが82%など8品目。価格が前年比高の品目は、バレイショがkg¥235で前年比261%、ネギがkg¥493で238%、ニンジンがkg¥151で128%など9品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥31で前年比61%、トマトがkg¥313前年比73%。キュウリがkg¥399で89%など6品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	114,660	94.0	101.0	232	107.4	93.2
た ま ね ぎ	9,991	89.3	105.5	105	127.6	111.7
は く さ い	12,635	103.4	84.2	31	61.3	83.8
キ ャ ベ ツ	16,795	101.8	130.3	63	107.2	63.6
だ い こ ん	9,642	87.0	91.0	81	117.5	90.0
レ タ ス	6,945	89.8	115.8	173	103.2	74.3
ば れ い し ょ	6,300	76.0	90.9	235	261.1	118.1
に ん じ ん	5,676	94.5	83.6	151	128.3	107.1
ト マ ト	5,448	113.6	91.8	313	73.1	104.7
き ゆ う り	4,797	102.9	101.8	399	88.5	102.6
ね ぎ	3,513	76.1	76.8	493	238.4	116.8
か ぼ ち や	1,881	87.8	111.9	164	109.8	80.4
な が い も	847	84.3	107.8	297	101.4	95.5
れ ん こ ん	895	135.4	96.9	370	71.0	95.9
に ん に く	181	46.3	96.8	1,399	200.0	110.4

### 玉葱の概況

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の入荷量は9,991トン前年比89%（前月比105%）で、いずれの産地も前年を下回った。主導産地の北海物の入荷は7,640トン前年比91%、占有率77%前年比2ポイントアップ。静岡物は1,

999トン前年比87%、占有率20%前年比1ポイントダウン。中国物は128トン前年比68%。長崎物は92トン前年比74%、占有率1%で前年並み。総平均単価はkg¥105前年比128%(前月比112%)。産地別では、北海物はkg¥82前年比125%。静岡物はkg¥183前年比136%。中国物はkg¥114前年比102%。長崎物はkg¥176前年比138%。いずれの産地も希望値に届かなかったが堅調裡に推移した。

3月に入り、北海物の入荷が減少傾向になると思われたが、中旬からは前年を上回る入荷となった。府県の新物も静岡産がピークを過ぎ、長崎・佐賀・愛知産に移行し、スーパー等小売り店では、新物(春物)に関心が深まり、北海産(ヒネ物)の関心が薄れてきた。昨今、新物の主力は九州産で、愛知産は量的に少なく、風乾・選果が不十分で、人気離散の傾向にある。九州産の入荷は順調で旬を迎えて日々値下がり傾向となっている。北海産は、引き合いが弱まり品余り状態で、在庫を抱えながら苦しい販売が続いている。

3月1日～20日の入荷量は7,260トン前年比108%、平均単価はkg¥104前年比126%。産地別では、北海物の入荷は5,264トン前年比103%、平均単価はkg¥83前年比138%。静岡物は944トン前年比128%、平均単価はkg¥170前年比109%。佐賀物は409トン前年比148%、平均単価はkg¥156前年比99%。長崎物は403トン前年比117%、平均単価はkg¥148前年比100%となっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は6,155トン前年比89%(前月比106%)で前年比2桁減、前月比増となっている。北海物が87%を占め引き続き北海物主導の販売となっている。北海物の販売量は5,376トン前年比89%、占有率は87%で前年比と同じ。静岡物は699トン前年比90%、占有

率11%で前年と同じ。愛知物は48トン前年比60%。総平均単価はkg89前年比113%(前月比105%)で、強含みで推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥76で前年比104%。静岡物はkg¥187で前年比137%。愛知物はkg¥166前年比134%となっている。

3月に入り、北海物と愛知・静岡の新物の併売となったが、北海物の入荷が順調で、北海物主力の販売が続いている。現在も北海物の占有率は65%を占めている。愛知物は増加傾向にあるものの、静岡物は終了間際で少量の入荷にとどまり売り辛くなっている。4月は、北海物と愛知物の販売となる。昨今の愛知物の球流れはL中心で小売店向きである。北海物の入荷は順調だが、引き合いは弱く、相場は軟調だが仕切値は変わらず、逆鞘販売の回避に努めていることで在庫が増加している。仲卸には転送業者の割安品の売り込みがあり、荷受の販売が減少している。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は、4,421トン前年比92%(前月比114%)で前年比減、前月比増となっている。静岡産の新物の入荷は予想外に少なく、他方北海物は前年を上回った。北海物の販売量は、3,662トン前年比117%、占有率83%前年比18ポイントアップ。静岡物は402トン前年比77%、占有率9%前年比2ポイントダウン。兵庫物は241トン前年比50%、占有率5%前年比5ポイントダウン。長崎物は105トン前年比136%占有率2%で前年と同じ。総平均単価はkg¥92前年比119%(前月比103%)で強含みで推移した。産地別の月間平均単価は、北海物はkg¥74で前年比117%。静岡物はkg¥191で前年比146%。兵庫物はkg¥167で前年比173%。長崎物はkg¥180前年比104%となっている。

3月に入ってから、北海物の入荷は順調で前年比2桁増の入荷が続いて

いる。兵庫の冷蔵物は終盤で大幅減、長崎、佐賀は前進化で前年比大幅増の入荷が続いている。此処に来て、兵庫の早生物も増加傾向である。月前半は、兵庫の冷蔵物は品質劣化が目立ち良品が少なくなったものの、こだわり筋の引き合いで割高で推移した。北海物は、入荷が意外に多く、荷動き鈍化で軟調に転じた。新物の主力となった長崎物は入荷増と共に値下がりにした。月後半は、兵庫の新物は割高で推移しているが、Mの動きが鈍化した。北海物は、入荷増で需給バランスが崩れ売れ残りが発生し、卸の在庫が増加している。仲卸の関心は新物に移行し、相場の値頃感から引き合いが強まっているものの、2LとMの動きが鈍い。

3月1日～20日の入荷量は3,297トン前年比124%、平均価格はkg¥93前年比119%。産地別では、主力の北海物のは入荷は2,353トンで前年比124%、平均価格はkg¥74前年比135%。長崎物が590トンで前年比148%、平均価格はkg¥137前年比96%。兵庫の冷蔵物のは入荷は188トンで前年比77%、平均価格はkg¥136前年比116%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は、1,926トン前年比94%(前月比115%)で、前年比減、前月増となっている。依然北海物主導の販売となっている。北海物の販売量は1,641トン前年比106%、占有率は85%前年比10ポイントアップ。長崎物は164トン前年比72%、占有率9%前年比2ポイントダウン。中国物は82トンで前年比55%、占有率は4%前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg¥92前年比103%(前月比100%)で横這いで推移した。産地別月間平均価格は、北海物はkg¥83前年比109%。長崎物はkg¥170前年比109%。中国物はkg¥103前年比106%となっている。

3月に入っても、月前半は北海物主力の販売であったが、月後半は長崎の

新物の増加と佐賀の新物の走りが入荷し日を追って、新物に移行した。昨今は、長崎物がピークとなり、県央の早出し物の入荷もあり、品質は見映えが良く島原物に比べ一段勝っている。佐賀物はJA唐津とJA白石が入荷している。佐賀物のピークは4月10日頃で、産地間のリレーはスムーズに行きそうである。北海物の入荷は予想外に多く、昨今でも占有率は35%前後を占めている。売れ行き鈍化で在庫を抱えながら厳しい販売を続けている。

3月1日～20日の玉葱の販売量は1,714トン前年比113%、平均単価はkg¥95前年比107%となっている。

### 3月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

#### 【札幌市場】 入荷231トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,600～1,000、L大 ¥1,600～1,000、L ¥1,500～ 900、  
M ¥1,000～ 800。

長 崎 10kgDB2L ¥900 ～ 800、 L ¥1,400～1,300、 M ¥1,300～1,200。

#### 【太田市場】 入荷279 トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,400～1,300、  
M ¥1,200～1,100。

佐 賀 10kgDB2L ¥900 ～ 800、 L ¥1,400～1,300、 M ¥1,300～1,200。

長 崎 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,200～1,100。

愛 知 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,200～1,100、 M ¥1,000～ 900。

#### 【名古屋北部】 入荷124 トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,300、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,300～1,200、  
M ¥1,100～1,000。

静 岡 10kgDB2L ¥1,000～ 900、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,100～1,000。



愛知 10kgDB2L ¥1,000～900、L ¥1,400～1,300、M ¥1,100～1,000。

**【大阪本場】** 入荷207 トン 弱い

北海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L大 ¥1,400～1,200、L ¥1,200～1,100、  
M ¥1,000～800。

兵庫 10kgDB2L ¥1,600～1,400、L ¥1,800～1,500、M ¥1,500～

長崎 10kgDB2L ¥800～600、L ¥1,200～1,000、M ¥1,000～600。

佐賀 10kgDB2L ¥800～700、L ¥1,100～900、M ¥800～700。

大阪 10kgDB2L ¥800～700、L ¥1,000～900、M ¥800～700。

**【福岡市場】** 入荷140 トン 強保合

北海 20kgDB2L ¥1,600～1,400、L大 ¥1,600～1,400、L ¥1,500～1,200、  
M ¥1,200～1,100。

長崎 10kgDB2L ¥1,200～600、L ¥1,300～600、M ¥1,200～600。

佐賀 10kgDB2L ¥1,200～600、L ¥1,300～600、M ¥1,200～600。

**供給(産地)の動き**

3月からは北海物の出回り量は、北海産地の事前情報で前年を下回ると予想していたが、市場では昨年以上の順調な入荷が続き、北海物の3月市況は前年同月比では大幅高となったが、期待したほどの値上がりはなかった。府県の新物も静岡が終盤を迎えたが、続く長崎、佐賀物の前進化で順調な入荷が続き、相場は前年並みか前年比安となっている。府県産地では、ペト病の発生を懸念して、早生系の作付が増反傾向に、中晩生亦は晩生が減反傾向となっている。

## 北海道産地

3月出荷は終盤を迎え、出回り量は日々減少すると予想されていたが、JA系・商系ともに未だ出荷終了との声を聞かない。日量の出荷量は減少傾向にあるものの、市場の入荷量は前年を上回っている。産地の在庫は前年に比べると少ないものの予想外に多い。市場価格は前年比2桁高となっているが、荷凭れ状態の市場が多く、流通段階で滞留し販売に苦しんでいる卸が多い。スーパー等小売り店の関心は新物に移行している模様だが、府県の早生物産地から北海物にたいする恨み節が聞こえる。

北海道産地では、ビニールハウスで次期作の育苗中だが、発芽は順調で生産者は散水と温度調整に励んでいる。今年、積雪量の多い地域では、融雪が順調で定植作業が遅れないことを祈っている。

## 府県産地

3月の府県産の出回りは、冷蔵物は終盤を迎え、日々減少傾向となったほか、静岡物はピークを過ぎ日を追って減少した。続く長崎が最盛期を迎え順調な出回りとなった。市況は北海物の予想外の出回り増で、日を追って値下がりがした。

府県産の早生物の主力は、静岡物から長崎物にバトンタッチされ、長崎物は3月ピークで月末から佐賀物にバトンタッチされる。4月には兵庫物が加わる。

長崎産地では南島原地区が終了し、愛野・諫早地区に移行している。愛野地区は球肥大が良好で大粒傾向である。諫早地区は栽培歴が古く、黒マルチ栽培が主力で、病害がなく球揃い・球締りが良い。赤土の圃場が多く見栄えも良い。収穫中の生産者の話では、今年は秀品が殆どで、近年になく商品化率は高いと言う。

佐賀産地では、早生の出荷は前進化傾向にあるが、若採りの圃場が多く、レモン型の未熟品が多い。生産者は「完熟すると収量は多くなるが、扁平球が多

くなり、市場価格は割安で手取りは少なくなる」と言う。局部的にべと病の発生が目立ち、防除の不徹底さを実感する。昨年の多発生圃場が今年も多発している。産地を一巡するも、圃場で防除作業している風景は皆無であった。

今年の栽培面積は、県下全体では昨年の異常安と病害により減反傾向と言われているが、主力産地の白石地区では増反となっている。前年は病害圃場の廃棄処分等もあったが、増反率が予想外に大きい。JAの発表では、今年の作付面積は1,027ha(前年914ha)前年比112%。販売計画は40,000トン(前年実績32,800トン)前年比125%となっている。此の先、病害が多発生しないことを念願している。

兵庫の主産地淡路島では、品種の更改で多収穫種のレクスターの作付が減少し、極早生のスーパーアップが増加し、早生種の出荷が前進化している。中・晩生もターザン・アンサーが増え、オメガ・もみじ・輝きが減少している。生育は順調で総じて前進化傾向にある。病害の発生も今の処、昨年よりも少ない。生産者は防除熱心で、何時も圃場で薬剤散布をしている生産者を見掛ける。

淡路玉葱協会の調べでは、今年の作付面積は、1302ha前年比94%。生産量78,100トン前年比97%。出荷量77,900トン前年比104%と報告されている。一般的には減反率はずっと低いとの声が高い。

### 輸入動向

2月の輸入は、速報値で13,973トン前年比99%。主力の中国物の輸入量は13,183トン前年比101%、アメリカ物が428トン前年比94%。タイ物が423トン前年比73%となっている。例年、2月は中国の春節(旧正月)の関係で輸入量が大幅減となる。

中国、甘粛省を始め雲南省の産地価格は、年明け堅調で日々値上がりしていたが、春節以降は国内マーケットの野菜の値下がりに加え、韓国のオーダー

が減少したこと等で、産地価格は続落している。現在、日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$8.80～9.00に値下がりしている。

ニュージーランド、現在、日本向けのオファーは、70～80mm・C&F・¥1,000前後だが成約は殆どない。

#### 4月の市況見通し

3月以降北海の出回り量は、前年比で大幅に減少する。との情報が流れ、北海物の市況が好転すると期待されていたが、市場販売量は前年比増となり、市況は軟調が続いている。4～5月の北海物の出回り量は前年比で減少が予想されるものの、府県産地の早生物の生育前化で、4月の出回り量は予想を上回ることになりそうだ。新型コロナ感染で、各種イベントの中止や多人数の飲食が自粛に追い込まれ、家庭外の飲食需要が減退することもあり、需給改善の望みは薄い。府県産地では、近年ベト病の被害が常態化していることで、極早生の作付が増反傾向に、中晩生は減反傾向にあることで、4月の出回り量は増加傾向にあり、需給バランスは供給増になる可能性が強い。今年も、北海物の残量次第で共倒れになる可能性があり、早生産地では北海物の残量に気を揉んでいる。4月の販売環境は予想外に厳しく、此の先市況は日毎に軟化し、北海物・府県産の早生物ともに月後半には再生産価格を割り込む可能性がある。一時期北海物・府県の早生物ともにkg ¥50台を割り込む場面がありそうな雲行きである。(了)